

同 外門
廣式門
切手門
喰違門
休策門
番匠門
手櫛門
山崎門
坂、口門
坂、口外門
塗上門
入隅門
高松門
水道上門
同 中門
同 脇門
蓮池門

厩之後坂中門。
厩前。
式臺脇。
辰巳門續東の方。
坂口外門内方向。
小幡主計屋敷高。
御書院向方土藏脇門。
塗上門内方役人往來中程。
入隅門之高御書院先。
御居間先御庭長屋。
御居間先御庭長屋より水道脇門迄之間に有之。
新坂柵門横役人往來入口。
百間堀向の方。

御亭口門
長谷門
管脇門
川口門
瀧之上門
橋下門
竹林門
御宮口門
乙鳥門
雁鳴門
唐門
隨身門
長坂門
堀脇門
奥之口門
蓮池御物見前二枚開

蓮池門之内横。
坂下門蓮池往來入口。
廣坂高物置後より蓮池御庭へ出口。
廣坂高。
鶴之御庭籠際。
四圍部屋方後御庭より長部屋横へ出口。
磐松屋敷向。
御馬見所横後。
綿羊小屋と土藏之間。
部屋方後土塀と綿羊小屋之間。
御鎮守櫓時鐘所の方。
御鎮守天満宮之門。
堀脇門向。
以上三十五ヶ所

右は、竹澤殿閣續きの諸門及び境内諸口の門共の名稱な

り。按ずるに、皆竹澤殿閣造營の後、新たに名付けられし名目にして、竹澤殿存在の時の盛大なる事、此の門號などにも知られけり。故に今爰に記載して、竹澤殿の古蹟に備ふ。鶴の御庭とあるは、大木の松を金網の内へ圍ひ込み、丹頂の鶴を入れ置かれ、綿羊小屋は、綿羊を飼ひ置かれける小屋なりといへり。

○異蕃館

此の館は、今云ふ博物館の建物なり。竹澤殿に養老し給ふ中將齊廣卿の小君は、鷹司前關白左大臣政繼公の息女にて、文化二年十二月入興以來、江戸本郷の館に居給ひ、文政七年齊廣卿逝去し給ふに依つて落飾し、眞龍院殿と稱しけり。然るに天保九年八月金澤に來給うて、城中二ノ丸に居給ひしが、文久三年正二位前中納言齊泰卿の小君も、亦金澤へ來り給ふに付き、眞龍院殿の居室を竹澤殿の廢跡に造營せられ、城中よりの方角を以て、異殿と稱し、同年八月十四日移徙ありて爰に居給ひ、明治二年十一月異住居所と改稱せられ、翌三年六月八日逝去し給へり。夫れより空館と成る。故に同年の冬、英佛學の學校となし、東校と呼べり。

後に東校の稱號を廢し、育英小學校とす。其の後諸學校變換の際拂ひ下げと成り、博物館とす。

眞龍院殿、金澤へ來り給ふ時、みづからものし給へる道記に云ふ。年頃越路に湯あみせん事をおもへど、おぼやけの御説とやらんもあれば、とみにもゆるされまじと空しく月日を送り侍るに、宰相の卿もみづからの心を汲みて、何くれとおぼやけにねぎ申させ給ひけるに、天保九つのとし彌生の末つかた、漸くに暫しの御暇を給ひぬとの仰事くだり侍りぬ。いとまかしこく畏りて、嬉しさいふばかりもあらねど、流石に年月馴れし東の空立ち離れ行かんも心ぼそく、かつうは諸子の君のしたしみ深く、いたうしたひ給ひぬるに、今更別れ侍らんもほいなく、又むまご達の生末も見まほしきものから、とやかくやと思へど、梓の弓のうらなくも、年月籠めしねぎ事なれば、心強くも引きは返さじと、難面いひはなちなどしつるに、いつしか春過ぎ夏もたけ、秋來る風のそよ吹くより、こなたかなた行きむかひ名残を思ふに、いとはや葉月四日といふに成りぬ。けふぞ東の別れとおしまれて、とみに立出づべくもあらず休らひあへ